

科目名称：	特別支援教育の理解Ⅰ	
担当者名：	中村 明成、佐伯 英明	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	1
授業の目的・テーマ		
保育の時期の子ども理解だけでなく、学童期や大人の「特別な配慮を必要とする」方たちへの理解など、ボランティア体験も含めながら、実践的に学びを深める。また、障害別の分類に頼らず、一人ひとりの違いを実感しながら、保育者としてのかかわりを構築する基礎となる理念・知識を修得する。		
授業の達成目標・到達目標		
今日の保育所、幼稚園、こども園では、様々な「配慮が必要な」子どもがいる。特に「自閉症スペクトラム」や、その疑いのある子どもとのかかわりが難しく、保育者も日々悩みながら保育している。本授業では、インテグレーション（統合保育）の流れから、インクルージョン（包摂する保育）に至る理念を押さえながら、「配慮が必要な子ども」とどうかかわるかが、「一人ひとりの子どもを大切にする」ことにつながることを、確認していく。		

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神と設立の理念を基に、基礎知識を修め、子ども・保護者・地域住民に信頼され、多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、保育・幼児教育の分野において貢献できる使命感、倫理観、責任感、実践力を身につけている。	○
DP(3)	幼児教育の学びを通して多様な社会に対応できるような豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(4)	学生一人ひとりが、演習、実習などを通して様々な課題に取り組み解決する学修経験を重ねることで、その場に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)	60		10	30	100
幼児教育DP(3)					0
幼児教育DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》 障害者支援施設支援員	《経験年数1》 11年10ヶ月
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 障害児保育の基礎① (意義と必要性)	前期の授業で学習したことを振り返る	40分
第2回 障害のある子ども・ひととの出会い	前期の課外活動についてまとめる	30分
第3回 今日における障害観・その歴史的変遷	前期「子ども家庭福祉」のテキスト「障害のある子ども」を読み直す	20分
第4回 障害児保育の基礎② (ICIDHからICFへ)	参考書の読み込み	30分
第5回 障害児保育の基礎③ (障害別の理解を超えて)	参考書の読み込み	30分
第6回 障害児保育の基礎④ (サービスの理解と家庭や専門機関との連携及びその必要性)	参考書の読後レポート作成	30分
第7回 障害児保育の基礎⑤ (幼児期から学齢期・大人へ)	参考書の読後レポート作成	30分
第8回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法① (視覚・聴覚) グループごとにプレゼンテーション	自分が担当するテーマを調べる	50分
第9回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法② (肢体不自由・医療的ケア) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第10回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法③ (知的障害) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第11回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法④ (自閉症スペクトラム及び気になる子ども) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第12回 障害特性の理解と発達援助の具体的な方法⑤ (貧困、虐待児、外国籍の子どもなど) グループごとにプレゼンテーション	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第13回 障害児保育の実践① (総合保育の現場で)	前回のプレゼンテーションのまとめ	30分
第14回 障害児保育の実践② (実践と記録の方法の実際)	実習での「特別支援」が必要な子どもについてレポートを書く	40分
第15回 特別な支援が必要な子どもの理解と対応	実習での「特別支援」が必要な子どもについてレポートを書く	40分
<p>事前事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。</p> <p>また、事前事後学修としては、参考書の読み込みと読後レポートの作成をすることになる。実習後の「特別支援」が必要な子どもについてもレポートを作成する。</p>		
成績評価の方法・基準		
<p>定期試験は、60%で評価する。その他の評価配分は、以下のとおりである。</p> <p>授業への積極的関与 (30%)、レポート (10%)</p>		
課題に対するフィードバック		
事前学習や、授業で作成したレポートについて、添削し評価し、返却する。		
教科書・参考書		
<p>テキスト 適宜資料を配布する</p> <p>参考書・参考資料等</p> <p>「自閉症の僕が跳びはねる理由」(東田直樹著、角川文庫)</p> <p>「自閉症の僕が跳びはねる理由？」(東田直樹著、角川文庫)</p>		